※令和４年度以降入学生用

学校番号	２００１

令和８年度　芸術科

教科	芸術	科目	書の世界	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書							
副教材等	なし						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

古典の筆法から発展させ、書画や現代の言葉を中心にした作品制作をめざします。

古典臨書と「漢字かな交り」創作や書画創作を中心にして二本柱で進めていきます。

文字の歴史をたどりながら臨書学習をし、隷書体を中心に書の技術を学びます。普段使っている言葉や文章を作品にして、生活の中で書を楽しむ心情を育てます。

2　学習の到達目標

書道の創造的な活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
（１）書の表現の方法や形式、多様性などについて理解を深めるとともに、書の伝統に基づき、効果的に表現するための技能を身に付けるようにする。
（２）書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。
（３）主体的に書の創造的な諸活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	文字と書体の変遷による筆法の変化を知り、技法を体得する。 紙、筆、墨などの特性を知り、それぞれに対応する技術を身につける。 様々な表現方法や技法を学ぶ。	技術と精神の両面によって作品が出来るということに気づく。 良い作品と上手い作品の違いを考える。 様々な表現の方法を取り入れ、自分のものにしている。 お互いの作品を正しく批評して鑑賞ができている。	書に関心を持っている。 意欲をもって作品の制作に臨んでいる。 作品にする言葉の選択に力を注いでいる。 自分に合った表現を工夫している。

※令和４年度以降入学生用

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
１学期	学習準備	篆刻	a:（知識）篆刻の歴史、朱文、白文について理解している （技能）刻字の技術を身に付けている・正しい押印の方法を身に付けている。 b:印稿のデザインを工夫している。 c:古典の印を鑑賞してその表現を取り入れる取り組みをしている。	作品	作品 製作の様子	作品 製作の様子
	古典臨書	毛筆書道の基本 文字と書体の変遷の歴史 文字の統一と小篆	a:（知識）篆書から隷書、楷書、行書、草書への書体の変遷について理解している。 毛筆書道の道具、姿勢、構えについて理解し、身に付けている。 b:（技能）書風の違いを捉えた表現を構想し、工夫している。 c:字形や攻勢を工夫して臨書しようとしている。	作品	作品 製作の様子	作品 製作の様子
		隷書 西嶽華山廟碑	a：（知識）隷書成立の歴史、西嶽華山廟碑の背景について理解している。 ｂ：（技能）古典の特徴を理解し表現することができている。 ｃ：逆入する起筆の技術を理解し、身に付けることによって強い線を引けるようになっている。	作品	作品 製作の様子	作品 製作の様子 相互評価
２学期	古典臨書	行書 枯樹賦	a:（知識）行書成立の歴史、枯樹賦の背景を理解している。 b:（技能）毛筆の機能と行書の運筆技術を身に付けている。 古典の特徴をとらえた表現、筆脈を理解し工夫している。 ｃ：文字の動きや流れを工夫し、主体的に取り組もうとしている。	作品	作品 製作の様子	作品 製作の様子 相互評価

※令和４年度以降入学生用

	漢字創作	一字創作 二字熟語 四字熟語 故事成語の書画制作 表具 展示 鑑賞	a:（知識）様々な文字と熟語を学び、それを画仙紙に創作していく。 b:（技能）文字の章法、構成、リズム、ストローク、タッチなどを知り、その技能を身に付けている。 c:自分の思いを伝えられる文字を探し、主体的に表現し、創造的に活動し取り組もうとしている。文字の意味や造形から作品のイメージや線質の表現などを工夫している。 他者と協働し、表装作業を行っている。	作品	作品 製作の様子	作品 ワークシート 相互評価
3学期	漢字仮名交じり創作	漢字仮名交じり書 課題創作 自由創作 表装 展示 鑑賞	a:（知識）様々な作家の文章を学び、鑑賞し、それらを画仙紙に創作していく。 b:（技能）。文章の章法、構成、リズム、ストローク、タッチなどを知り、その技能を身に付けている。墨の濃淡、潤渇、余白、線質などの工夫をし、表現の効果を考察している。 c:意欲的に作品にしたい言葉を探し、または、自分で文章を創作しようとしている。 他者と協働して表装作業を行っている。相互評価をもとに、自己の作品を考察し、主体的に創造的活動に取り組もうとしている。	作品	作品 製作の様子	作品 相互評価 レポート提出

※令和４年度以降入学生用

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度